

パブリッククラウドで構築・実行するすべてを保護

クラウドネイティブアプリケーション保護プラットフォーム (CNAPP)

WIZ

パブリッククラウドを運用する関係者様のよくある悩み

クラウド管理者
(CCoE)



把握ができていない事項

- ・環境ごとの管理担当者
- ・ソフトウェアの利用状況
- ・無駄なリソースの有無
- ・脆弱性の対応依頼先と修正状況
- ・自社ガイドラインへの準拠状況
- ・IAM (権限) の付与状況
- ・新しい技術のセキュリティリスク

その他：責任者への定期報告に時間がかかる

セキュリティ



クラウド管理者
(CCoE)



管理者からの指示に対して

- ・リソース不足で対応に遅れ・漏れ
- ・優先順位の判断が難しい

その他：社内ポリシーに準拠して効率的に構築を行いたい

責任者
(CIO/CSO)



固有の悩み

- ・運用効率化
- ・取締役会への報告
- ・コスト最適化

WIZがパブリッククラウドのリソースとリスクを可視化し、次世代の運用を実現

エージェントレス・スキャン



組織アカウントも
一括で有効化可能

あらゆるリソースの可視化



最重要リスクの優先度付け



自動化と修復ガイダンス



WIZが選ばれる理由

クラウド運用の効率化

セキュリティ強化の両立&底上げ



ソフトウェア
管理



クラウド構成
管理



IAM 管理



機密情報の
洗いだし



コンプライアンス
チェック



自動化

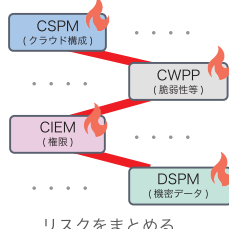
マルチクラウド環境に必要な機能がオールインワン

今、本当に必要な対応だけを

適切なユーザーへ自動通知し、修復方法をアドバイス

STEP.1

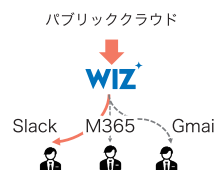
様々なリスクを関連付け
今必要な対応のみを抽出



リスクをまとめる

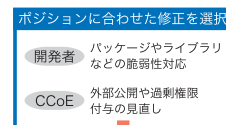
STEP.2

適切なツール経由で
適切な担当だけに自動通知



STEP.3

ポジションに合わせた
修正方法を提案
チームでの早期対応が可能に



GUI IaC CLI
使用しているツールに応じた
修正手順を具体的に提示

クラウドに関わる全てのユーザーの中心プラットフォームへ！

東京エレクトロンデバイスが選ばれる理由

導入前 POV 支援

- 成功条件の設定支援
- 実環境への接続支援
- 操作トレーニング
- 導入効果のシュミレーション
- エグゼクティブ向けレポート
- 進捗定例会
- QA 対応
- 各種インテグレーション支援

導入後支援

- ・平日 9:00-17:30 ヘルプデスク対応 (24/365 受付) ※Zendesk でのチケット管理含む
- ・QA 対応 / メーカーお問い合わせご支援
- ・お客様毎に固有のメール発行によるテナントログイン (読み取り権限)
- ・問題発生時のお客様テナントから診断ファイルの取得とメーカーエスカレーション代行
- ・MSP ベンダーへのエスカレーション方法を TED のクラウドの知見でサポート

WizのCNAPPとは



対象プラットフォーム
IaaS/PaaS
• AWS
• Azure
• GCP
• OCI
• Alibaba Cloud
オンプレミス
• Kubernetes
• VMware(preview)
コンテナレジストリ
• Amazon Elastic Container Registry(ECR)
• Docker Hub
Container Registry



正確さ

ノイズとフォールスポジティブを低減する優先順位付け



スピードと拡張性

セルフサービス化とカスタマイズ可能なワークフローにより、あらゆる規模の組織で迅速な修復を実現



ユーザーチョイス

ユーザー部門の主体的な行動を促し重要な対応にリソースを集中させる

CSPMはCNAPPの機能の一部/ツールを個別で導入することによる弊害例

パブリッククラウドの責任共有モデル

IaaS	PaaS
データ	データ
アプリケーション	アプリケーション
ミドルウェア	ミドルウェア
OS	OS
仮想化/ソフトウェア	仮想化/ソフトウェア
ハードウェア	ハードウェア
	ユーザ
	クラウド事業者

管理ソリューション名



DSPM

Data Security Posture Management
・データセキュリティ体制管理
・機密データを保護 など



CWPP

Cloud Workload Protection Platform
・ミドルウェアの可視化
・バージョン/EOL管理
・脆弱性管理など



CSPM

Cloud Security Posture Management
・IaaS/PaaSのリソース状況管理
・設定ミスの検知
・ポリシーチェック など

それぞれのソリューションを個別で実装することによる弊害例



構築 運用担当

- ・ツールの数だけ個別に導入・運用が必要
- ・一貫性のないポリシーをツール個別に管理
- ・ツール毎に発生する大量のアラート
- ・コンテキストの欠如により優先度が不明確
- ・学習コストがツールの数だけ増加

- ・環境を横断した可視性がなく管理が困難
- ・ツールごと何度も利用・運用者と連携が煩雑
- ・高度化する新たな脅威への継続対応
- ・ツールごとバラバラなサポート窓口による混乱



管理者

CNAPPは高機能。Wizは誰でも使いやすいよう設計されています。

CNAPPは機能が豊富なため、使いこなすのが大変

- ・設定と構成の複雑さ
 - ・CNAPPは多機能であるため、初期設定や構成が非常に複雑
 - ・アラートが機能ごとに発生し、アラートの嵐に陥る
 - ・管理画面 (UI) が細かく、どこに何の機能があるかわかりづらい
- ・役割分担
 - ・多機能であることから、社内の役割分担の定義に時間がかかり結果、導入するだけで使いきれないケースが多い



本紙に記載された会社名、ロゴ、ブランド名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。その他全ての商標および登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。

Wiz

CNAPPのベースとなる機能

Check

確認/可視化

- ・自社内のクラウドの利用状況
 - VM/OS/バージョン/構成/権限/機密情報の有無など
- ・コストの利用状況
- ・各種ベンチマークへの対応状況
- ・デプロイ前のIaCのコードスキャン

Detection

検知

- ・リスクの特定
 - 設定ミス/脆弱性/マルウェア/外部公開/過剰権限/など
- ・攻撃経路の特定/優先順位付け
- ・特定されたリスクを適切な担当者へ通知



が得意なポイント

Simple シンプル

- ・複数リスクを踏まえたコンテキスト化による、アラートの集約
- ・稼働中の環境に対する初期導入が簡単
- ・修正手順の提案/既存の運用Stepを大幅省略
- ・ツールUI上で、お客様契約中のチケットサービスへ直接起票



東京エレクトロン デバイス株式会社

CN BU

<https://cn.teldevice.co.jp/>

本社：〒150-6234 東京都渋谷区桜丘町1番1号
渋谷サクラステージ SHIBUYAタワー35階

大阪：〒530-0001

大阪市北区梅田3-2-123イノゲート大阪17階

名古屋：〒451-0045 愛知県名古屋市西区名駅2-27-8
名古屋プライムセントラルタワー8階